

# 教育 コンサルタント の

# 自画像

第 150 回

## タイミング マネジメントで 主体性を引き出す

プライムタイム  
代表取締役  
坂本敦子



さかもと あつこ

国際線客室乗務員として航空会社に入社し、首相特別機にも乗務。その後、外資系総合化学会社の人事部で採用、人財育成の仕事に携わる。1995年に人財育成コンサルタントとして独立。人生・ビジネスのタイミングをつかむ実践行動学「タイミングマネジメント®」を開発し、2005年に発表。2012年、「スティービー賞」受賞。

### どのタイミングで行動するか



これまで、研修で数多くのビジネスパーソンと真剣に向き合い、日常業務や人間関係における成功体験・失敗体験を語り合ってきましたが、成否を分ける要因のキーワードとして、必ずといってよいほど「タイミング」という言葉が出てきます。

たとえば、「報告、連絡、相談、確認、情報の共有」が大切であることはだれもがわかっていますが、そのタイミングが悪いことで、リスク（ミスやトラブル、ムダな残業など）が発生しているケースが数多くあります。「あのとき、あのタイミングで〇〇しておけばよかった……」と後悔しても、時すでに遅し。同じタイミングは二度とありません。タイミングを考えずに後悔するというリスクを回避することが、仕事の質を高めていきます。

部下のやる気を引き出し、成果を向上させる「ほめる、叱る」という働きかけも、タイミングによっては、部下のモチベーションや生産性に影響が出てきます。部下がよい結果を出したときだけでなく、注意したことを少しでも改善したとき、自信をなくしているときなどは、「ほめるタイミング」です。

一方、部下がミスをして混乱しているタイミングで叱っても、部下は冷静に話を聞くことができないので、効果的なタイミングとはいえません。相手の状況をよく観察したうえで、相手にとって最も効果的なタイミングで働きかけることで、部下の成長が促進されるのです。

さまざまな事例を考察するなかで、情報量や知識、技術、経験、特定のビジネス能力、人柄も成果につながる大切な要素ですが、よい結果を出すためには「行動するタイミング」が重要であることを確信しました。同じことでも、それをやるタイミングによって結果は変わります。「どのような行動をとるか」も大切ですが、「どのタイミングで行動するか」が仕事の成否を分ける損益分岐点となるのです。

この「タイミング」とは、運、ラッキー、偶然という受け身のものではなく、チャンス（偶然もたらされた機会・好機）とも違います。主体的に「好機」（時機）

を選択することであり、自分の意思、判断が組み込まれたものです。結果を出している人は、自らタイミングをつかみとっています。

「タイミング マネジメント®」は私が創作した言葉ですが、タイミングを軸に判断し、意思決定することで、リスクを未然に防いで成果を向上させるための実践行動学です。その定義は、「価値観とビジョンを基軸として、1つの行動が最大限の効果を発揮するタイミングをつかんで、そのとき最適な方法を選択すること」。人生・仕事の成功の秘訣を「行動するタイミング」であると考え、タイミングにフォーカスして時間を使うという発想です。

行動のタイミングによって生じる効果とリスクを予測し、「どのタイミングでやるか」という判断をする発想が、「いつまでにやるか」という期限と時間配分を考えるタイムマネジメントとの大きな違いです。

## WIN・WINになるタイミングをつかむ

最近是人手不足の傾向もあり、多くのビジネスパーソンから「1日にやるが増え、優先順位がつけられない」、「何から着手したらよいか迷う」、「スケジュールリングがうまくいかない」といった話を聞く機会が多くなりました。

数多くの案件を1人で抱え込んでしまい、右往左往しているうちに行動するタイミングを逸し、リスクを発生させてしまえば、組織にも個人にもよいことはありません。また、早く終わらせることが目的となり、受け身な姿勢になってしまうと、簡単なことや自分の得意なことからやり始め、苦手な相手に対する行動や面倒くさいことは後回しにしがちです。

それでは、自分の行動に影響を受ける相手にとってのタイミングがみえなくなり、自分中心の世界で仕事の順番を組み立ててしまいます。その結果、発生するリスクが大きくなりがちです。

「タイミングは貯金できないもの」であることをしっかりと意識して、相手と自分にとってWIN・WINになるタイミングをつかむことが重要です。

やりたいことが重なって迷ったときは、「いま、このタイミングでやらないことで発生するリスクの大き

さ」を冷静に比較してみると、優先順位に迷うこともなくなり、リスクも減っていきます。

## ムリ・ムダ・ムラをなくす

研修では、過去のタイミングの事例を考察しながら、仕事に向き合う自分の姿勢（価値観・ビジョン）を見える化します。また、さまざまな演習を通じて、一人ひとりがもっている主体性を引き出し、自分・相手・周囲の状況を注意深くみる「状況観察力」、タイミングによって生じる効果とリスクを冷静に考察する「予測・判断力」、行動するときに最適な方法を選択する「方法選択力」を磨き、ムリ・ムダ・ムラをなくす仕事のポイントを習得することができます。

ビジネスを取り巻く環境変化のスピードが加速しているなかで、受け身な人が多い組織は淘汰されてしまいます。環境や状況の変化を先読みして、「いま、自分は何をするべきか」という判断を素早く下し、主体的にタイミングよく行動できる力（機敏に動く力）を向上させることが、組織の発展には必要です。

タイミングを考えて行動するようになると、やらされている感覚ではなく、自分でハンドリングしている感覚になり、「作業」ではなく、質の高い「志事」になります。仕事のやりがい、達成感とは、指示されたことを受け身で行うのではなく、自分で判断・決断・実行したことがいくつあるかで決まるのです。

今後も、「タイミングをつかむ！ 創る！」という新しい思考回路を身につけていただき、自ら考えて動くことができる自立・自律した社員の育成と組織の変革・発展を推進していきたいと思えます。

### ●専門分野・指導実績

タイミング マネジメント®、時間有効活用、働き方改革、判断力・決断力向上、チーム力強化、業務改善力強化、営業力強化、コミュニケーション力強化、「自分力」パワーアップ他。創業23年、官公庁、メーカー、金融、商社、IT、建設業界など、経営幹部から新人まで、支援してきた受講者は延べ6万人超。

### ●連絡先

株式会社プライムタイム  
東京都千代田区二番町1番地 番町ハイム 501  
電話：03-3221-5530 FAX：03-5214-6962  
URL：http://www.primetime-winwin.com